
真剣でこの世界にやってきた

オナニー仙人@TDN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真剣でこの世界にやってきた

【Zコード】

Z6474Z

【作者名】

オナニー仙人@TDN

【あらすじ】

主人公【明】はいじめを受けて中学2年から3年のクリスマスまでひきこもっていたが、とうとう明は親にも追い出され自分の行き場を失う・・・そして明はどうとう飛び降り自殺をした・・・がなぜか自分が目を覚めたときには真剣で私に恋しなさいとまったくおんなじ世界にきていた・・・そこで彼は一人の男性にあった・・・その名は雅、そして雅をこういつ「今日からお前は俺のお父さんだ、よろしくな」
そう・・・すべてはここからだった

初めて投稿するんによくわからないとかあります
オナシヤス！！

真剣で考えなさい！！

自分は初めて小説投稿しますのでこれからオナシャス!!!

真剣で私こ恋しなやーーーーの派生小説です。

一応更新は富樫レベルと思っていてください。

それではよろしくお願ひします！！

僕の名前は「後藤
明」

二もつていた

「…………俺もこの世界にいきたいなあ…………2次元いいなあ…………」

卷之三

僕は、デブで女子からも男子からも嫌われているそのおかげで中2か

△廿三の余囃でひ物にJやいではNoのた

その日はクリスマスだった、僕はいつものようにアドベンチャーゲームしたり掲示板みたりして、いた

詩文作の部屋の邊に、セイタニガ作の「思

「おい、お前は今日でさよならだ、今日の6時に施設にいれるから

十九

第三回 二子の死別

僕は気が付いたら家から出て走っていた親父の声がだんだん遠くな
つて行く・・・

僕はなぜか学校にきていた
そこ僕はここで人生を終わらせるよ」と
おもつた

ああ・・・もし死んだら「真剣で私に恋しなさい」の世界にいきたい
なあ・・・

僕はそう思いながら飛び降りた・・・顔にはいろんなものがでてい
た、涙、鼻水、よだれ

今の僕は最高に汚かつた・・・せよなら・・・家族・・・

ドン

僕は目が覚めていた・・・ここは天国なのか・・・にしてもビーハ
カで見たような風景だなー・・・あん? そういうえばここ・・・
いや、ここは違う、天国だ・・・

俺はどうやら河原で寝ていたらしい

? ? ? 「よお、やっと気が付いたかもうあんな」とはするんじゃね

ーぞ」

俺「おい!! 誰だよ!! まどかだ!!」

? ? ? 「お前が望んだ場所だ」

俺「は・・・? と、いうことは・・・」

? ? ? 「そう、お前は明日から川神学園ですか」となる。いい
か? そして俺がお前の親となる雅だ、よろしくな

そういうて雅は・・・じゃなくて雅さんは俺に握手を求めてきた
雅さんは髪が長くスラッシュとしていた絶対こいつ持てるだろ・・・リ
ア充が・・・

そんなことは置いて僕はまだ今の現状がわかつていなかつた・・・

・
あ・・・そういえば死ぬ前に叫んでいたな・・・俺は思つていたこ
とを叫んで飛び降りたのか・・・

と、いうことはああああああああああああああああああああ
やつたああああああああああああああああ一次元きたああああ
ああああ!!

僕のテンションは爆発しそうなくらいだった

そのテンションに雅はフツつと笑つてこうこうた

雅「そのお前のテンションはどう？」まで続くかな・・・」

俺「どうごう事ですか?」

雅一お前の今の精神力だと
俺「べつ（色黒）

俺は・・・2次元でもひきこもりになるのかな・・・・いや、なら

ない！！絶対だ！！

これは神が与えたチャンスだ！！！絶対ものにしてやる！！！絶対にな

俺「僕は負けませんよ」

「はいかないでしょう」

父親だからな」

俺「雅さんあなたはなにものなんですか・・・！？」

雅。その説明はあとだ……。

俺「うーむ・・・川神院はいろいろと死にそうだから俺は島津寮で

一一一

雅「まったくお前は・・ハーレムなんて期待しても無駄だぞ?」
庵「庵ねえいな武道ジ」「カの主馬せ嫌ジ」!!! つかあそー異界

だろ「

雅「まあ、いいだろう」

「俺、雅さんはどうするんだい？」

雅一「俺も少しばかりにいてやれるか俺は四天王た
いから毎日はお前の面倒みてやれんと思う、それでもいいな?」

俺「ああ、もちろんだ・・・つて四天王?なにそれ?」

雅一 たああああああああああああああああああああ !! 今のは聞かな

いことにしたくね

俺「あ・・・ああ・・わかつた」

ついで俺の新しい生活が始まるのだった

真剣で課題をクリアしなさい（前書き）

雅がくりだした課題とは・・・

真剣で課題をクリアしなさい

雅「ほら、ここが島津寮だ、まあ連絡はいれておいてやったから後はお前に頼んだぞ」

俺「ちよつとまつて雅さんまだ聞きたい」とはやまほじあるのにトイイ！」

雅「俺は9時には戻るからそれまでゆづくじしててくれや」

俺「わ、わかった……」

いや、いくら一次元とはいども……やっぱ一年半ひきこもつてたせいかとても人と会話するのは怖い……

おばちゃん「あんが、明君ね今日は寒いから早くいらっしゃい！！」
あ、あれば麗子さんか……やっぱアニメで見たのとそっくりだなあ……

俺「あ、はい（拳動不審）」

麗子「さ、あんたは1回の一番奥の部屋だから」

俺「わかりました」

麗子「それと1階は男子の部屋2階は女子の部屋と分けられているからそこも気おつけてねもし、男子が2階にあげれば……その時は……まあ、お風呂は1階にあるから」

俺「わかりました、今後ともよろしくお願ひします」

そういうて俺は頭を下げた

麗子「うん、偉い子だね今日はサービスに夜ご飯は卵焼き付けとくわ

俺「ありがとうございます」

麗子「それじゃあ私は晩御飯の支度でもいってくるね、なにかまたわからないことがあれば行つてちょーだい」

俺「はい、そのときはお世話になります」

なんとか麗子さんの挨拶も終えて自分の部屋に戻つて行つたところだったにしても島津寮つてこんなに騒がしかつたんだな

俺「さーつてど、ここが新しい部屋かー ん? なんだこれ」
そこに【明へのプレゼントだ 雅】
と書かれた封筒とともにでかい箱があつた封筒の中には手紙がはいつていたよんでもみると

メリーケリスマス！！

君にはとておきのクリスマスプレゼントを用意したよ
といつても私生活類だけどね

雅
より

もう手紙には書いてあつたのだ

作持たれ

「かに似ていなか邪う」

K J J I

俺のテンションはまたしても爆発してしまった

麗子「みんなーー」はんだよーー

そういうて俺はアイボンを後にご飯にした

俺が食卓についたら

源さんと京と大和とキヤップがいた、つむやつぱアーメと一緒に住む麗子「今日からこの寮に住む明君、皆仲良くしなさいよ」

俺「旨よろしく！」

そういうて俺は元気よく挨拶した

キヤップ「おう、俺は風間翔一、キヤップと呼んでくれよろしくな

！」

大和「俺は直江大和よろしく」

源さん「俺は源忠勝よろしく」

京「・・・」

大和「ここは京、ちょっと根暗だが根はいいやつなんだ」

うむ・・・やっぱアニメと同じだな俺はそう思いながら飯にした

キヤップ「明はどうからきたんだ？」

この時なんていえばいいんだろうか・・・異次元転送とかいったら
完璧変人扱いされるし・・・

そうだ地元をいおう！

俺「俺は福岡からきたよ、ちょっと親の都合でこいつでくるはめになつたんだがな」

キヤップ「その親は？」

俺「ん？ 知らね

俺は適当に嘘をつきながらいろんなことを旨と話していく
よかつた・・・なんとか俺は会話くらいはできるみたいだ
しかしこの体系どうにかしないとなあ・・・太りすぎて1ヶ月もた
たないうちに女子から嫌われてしまう・・・そういうえば雅さんは四
天王とかっていたな、しかもあの人なんか強そうだし、今日頼ん
でみるか

俺は風呂からあがったときには雅さんがいた

雅「よお、仲良くやつてるじゃねーか」

俺「はい、おかげさまで 所で話があるんですが、いいですか？」

雅「ん？ なんだ？」

俺「俺は明日から何年何組になるんですか？」

雅「お前は1・F組だ、学力は心配するなお前よりも頭の悪いやつ
はいるから」

俺「えええ！－いきなり高校生ですか！－！」

雅「そうだよ、どうせあと少しで卒業だからよかつただろ」

俺「わかりました、それじゃ最後に一ついいですか？」

そして俺は雅さんの前で土下座した

俺「雅さん！－俺を強くしてください！－あなたは四天王なんでしょう
？聞き逃せといつても俺は絶対にそれだけは聞き逃せません」

雅さんは困ったような顔をしたがこう言った

雅「じゃあお前が川神百代に勝つたら俺の弟子にしてやろう

俺「わかりました！－

は？」

- ・ そうそして俺はこきなしくクライマックスな展開へ進んでいった・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6474z/>

真剣でこの世界にやってきた

2011年12月21日21時48分発行